

令和6年度 長野市 全国学力・学習状況調査結果

I 調査概要

1 調査内容

(1) 教科に関する調査

令和6年4月18日(木)実施 【小学校】国語、算数 【中学校】国語、数学

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

2 集計対象

市立小学校6年生 53校 2,795人

市立中学校3年生 23校 2,595人

※教科によって調査人数が異なるため、集計対象は、国語の実施人数を目安として記載



II 教科・調査別結果の概要

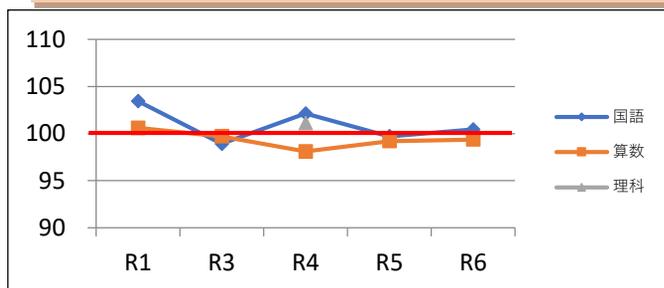
I 教科に関する調査の結果概要

本市及び長野県、全国の正答率 (%)

小学校

	長野市	長野県	全国
国語	68	67	67.7
算数	63	62	63.4

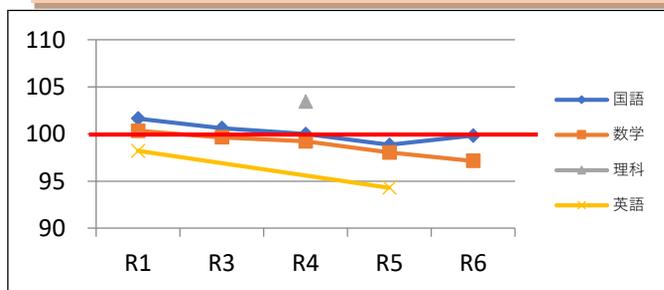
全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移



中学校

	長野市	長野県	全国
国語	58	58	58.1
数学	51	51	52.5

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移



「しなのきプラン」では平成27年度～令和5年度までの9か年を3年間ずつ3期に分けて学力向上に努めてまいりました。

成果

- 小学校の国語と算数において全国と同程度の正答率を維持
- 中学校の国語において全国と同程度の正答率を維持

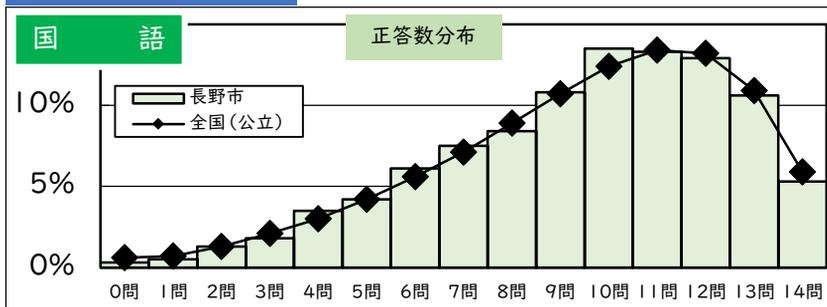
課題

- 中学校の数学において全国の正答率との比較が下降傾向

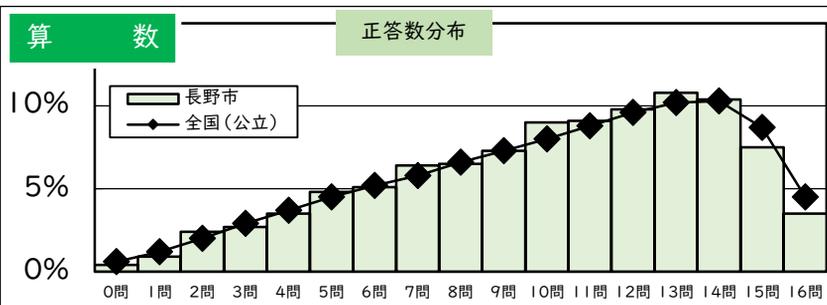
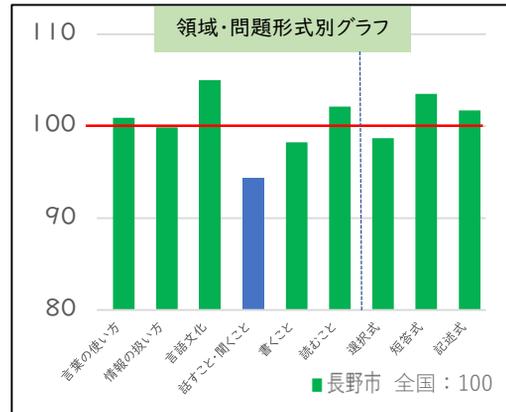
これらの結果を受け、子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張を支援するために、「しなのきプランⅡ」では、数値化しにくい見えない学力と言われる『非認知能力』と認知能力を一体的に伸張してまいります。



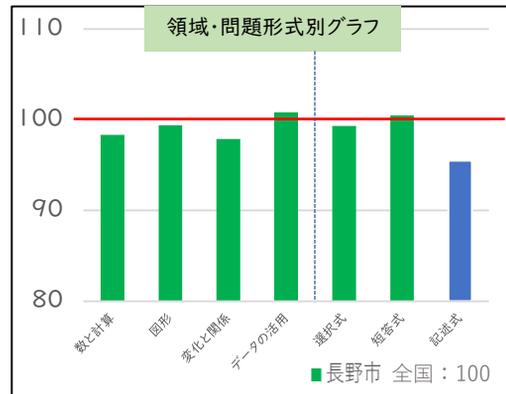
1 小学校



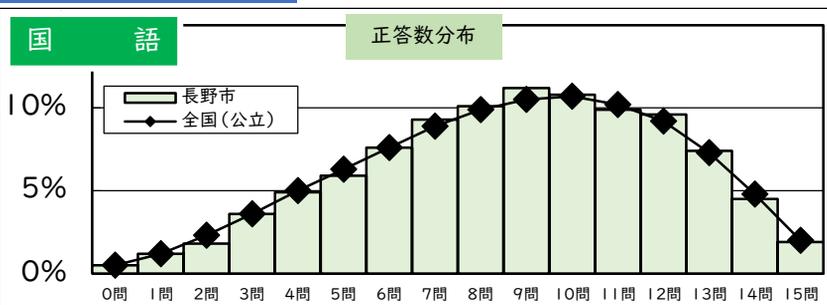
・正答率40%以下の児童の割合〔長野市:97〕 ※全国=100



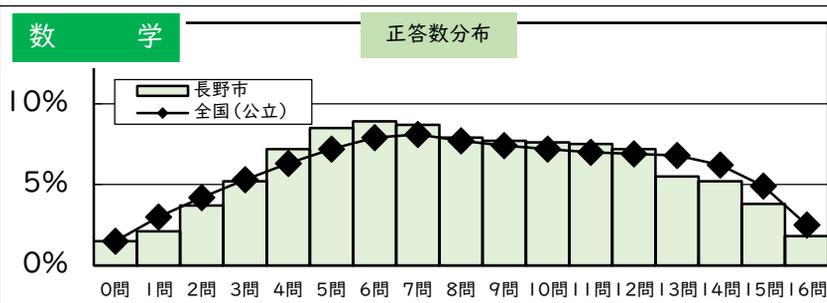
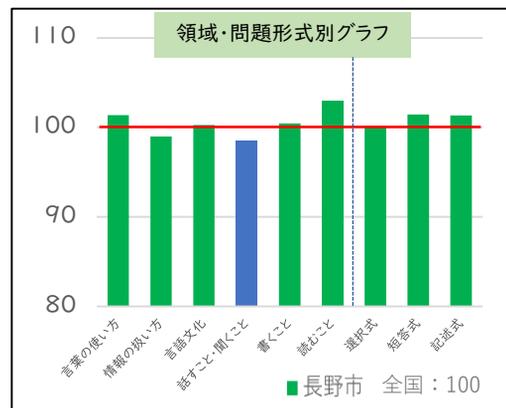
・正答率40%以下の児童の割合〔長野市:99〕 ※全国=100



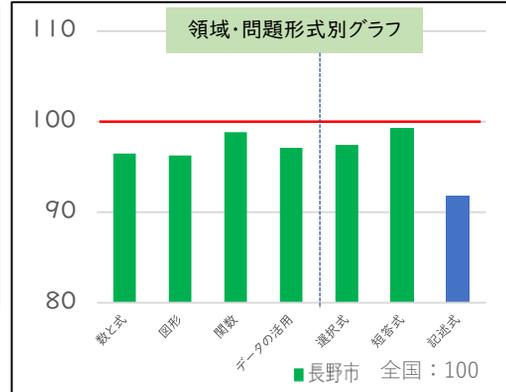
2 中学校



・正答率40%以下の生徒の割合〔長野市:96〕 ※全国=100



・正答率40%以下の生徒の割合〔長野市:105〕 ※全国=100



正答数分布から

- ・小学校の国語と算数、中学校の国語において、正答率40%以下の割合が全国よりも低いことが成果
- ・中学校の数学において、正答率40%以下の割合が全国よりも高いことが課題

領域・問題形式別グラフから

- ・国語では小・中学校が共通して、「話すこと・聞くこと」の領域が課題
- ・算数・数学では小・中学校が共通して、「記述式」の問題形式が課題





『児童生徒質問調査』の質問項目の中から「ウェルビーイング」や「非認知能力」に関わるものを抽出しました。各学校の正答率に表れてきた結果がどのような“子どもの状態”や“子どもの気持ち”によるものなのかを分析しながら、各学校のよさや強み、課題を洗い出し、学校教育目標の実現に向けて、子どもと教師の対話を通して、個に応じた指導・支援等の取組に繋げてまいります。

表中の値は、全国を100としたときの、長野市の肯定的な回答の割合

1 ウェルビーイングについて(児童生徒質問調査より)

質問番号	質問事項	小学校	中学校
(9)	自分には、よいところがあると思いますか	100	99
(11)	将来の夢や目標を持っていますか	99	99
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	101	100
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	101
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	96	98
(18)	友達関係に満足していますか	97	100
(19)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100	101

2 非認知能力について(児童生徒質問調査より)

3観点	質問番号	質問事項	小学校	中学校
みらい	(29)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	99	105
	(30)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	101	99
	(31)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	102	99
	(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	103	98
	(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	94	99
きずな	(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	99	97
	(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	98	100
	(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	101	96
じりつ	(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	103	100
	(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	100	98

1 「よさ・強み」を捉える

この例にならって、各学校でも様々な視点に着目し、児童生徒の「よさ・強み」や「課題」を捉えていきます。



肯定的な回答の割合 (P3の太枠) を切り口にその推移に着目



全国比を上回るものから、経年変化を追うと、児童が「自分で考え、自ら取り組める」という「よさ・強み」が見えてきました。

全国比を下回るものでも、経年変化を追うと、生徒が「自分で探究的な学習活動が展開できる」という「よさ・強み」が見えてきました。

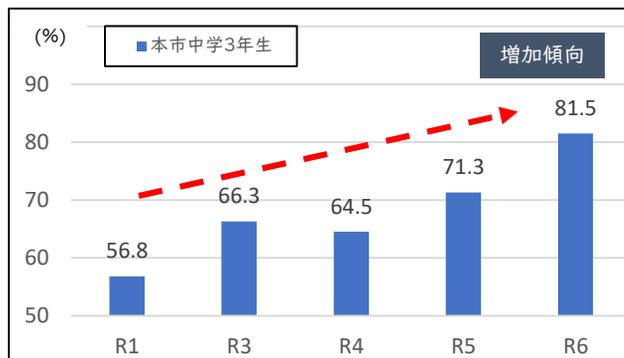
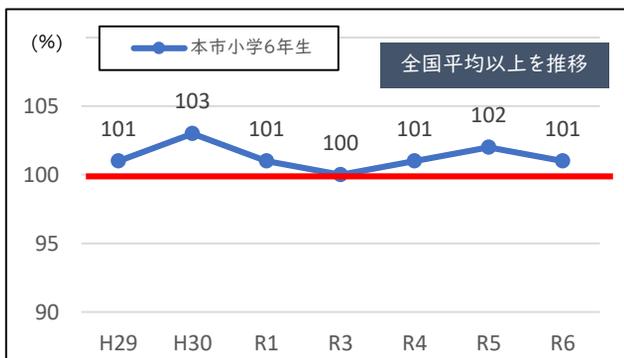


【小学校の「よさ・強み」をPICK UP】

Q30 これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか (全国=100)

【中学校の「よさ・強み」をPICK UP】

Q38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか (肯定的な回答の割合)



児童生徒が意識できている「よさ・強み」を生かして授業改善の充実を図っていきます

2 「課題」を捉える

肯定的な回答と否定的な回答の「差」に着目 (国からの提供データのクロス集計を参考)



正答率の差が最も大きかったQ20の「グラフ1」から、児童生徒が問いをもつこと自体に苦勞している可能性が考えられます。

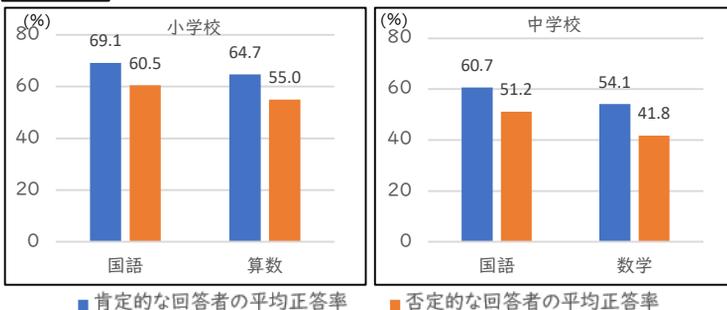
Q20の「グラフ2」より、約20%前後の児童生徒が「学び方」等に困り感を抱いていることが「課題」として考えられます。



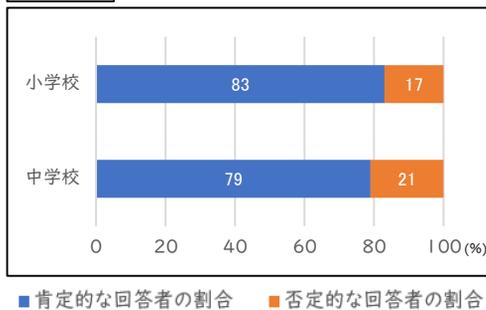
【小・中学校の課題をPICK UP】

Q20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

グラフ1 質問に対する回答別の平均正答率とのクロス集計



グラフ2 質問に対する回答別人数の割合



一人一人の児童生徒に寄り添いながら、個に応じた指導・支援等の充実を図っていきます

各学校では、分析した自校の「よさ」や「強み」、「課題」を行動指標と照らし合わせ、「よさ」や「強み」をより伸ばし、「課題」を補っていく授業改善などの取組を進め、「ウェルビーイング」の実現と非認知能力の高まりを目指していきます。市教育委員会では、現場の実態に即した対話を中心とした「学校訪問支援」や「非認知能力」を育む研修等を実施しながら、引き続き学校の取組を支援してまいります。